

抱樸館を支える会 会報

17号



2016年4月1日 発行:抱樸館を支える会

えにしの会(抱樸館福岡ボランティア部)の懇親会開催(2月13日)

えにしの会(抱樸館福岡ボランティア部)は、抱樸館福岡の卒業生45名、抱樸館福岡の退居者や抱樸館福岡で行われている生け花やパステル画、健康相談会などのボランティア活動を支えてくださっている皆さん、抱樸館スタッフなど総勢約67名の会です。

これまで、料理練習会や毎週金曜日のカフェなど、個別に連絡を取り合いながら関わっておられる方々もおられますが、一堂に集まったの懇親会の開催は今回が初めてです。お互いを知った上で、会のこれからについて話し合いました。

抱樸館福岡の近くの多の津公民館を会場に、卒業生19名、ボランティア活動を支えてくださっている皆さん9名、公民館の方2名、抱樸館福岡スタッフ5名の35名が参加しました。

6つのテーブルに分かれて座り、お茶菓子、コーヒー、ジュース、お茶なども用意しました。

パワーポイントでの活動報告で、えにしの会が抱樸館福岡初の卒業生があった2010年にスタートしたことと、手仕事、パステル画、生け花、お抹茶、カフェさんぽみち、料理練習会、支える会会報の発送作業、NPO法人抱樸の活動への協力、健康相談会、傾聴ボランティアなどの活動紹介がありました。

それから「テーブルにすわっている相互の紹介」です。まず自分の“名前、出身地、好みの食べ物・動物・場所”を紙に書きます。そして前に座った人に、自分を紹介し、そしてテーブルの皆さんに紹介するととも

に皆さんの紹介を聞きます。30分ほどそれぞれのテーブルで話が盛り上がります。

そして前の

黒板に紹介した紙を出身地ごとに貼ってみると、北海道の出身の人から青森、東京、大阪、九州は鹿児島まで、「あら山口県が4名もいるよ、やはり福岡県出身者が多いな」ということで、話が弾みます。

そして、日ごろ抱樸館福岡の手仕事や生け花などでお世話になっているボランティアの皆さん、公民館の方々に感謝の花束を贈りました。

終わりの挨拶の中で、ボランティアスタッフの原山さんから今後の提案がありました。このような会の先輩でもあるNPO法人抱樸の「なかまの会」を紹介、なかまの会では地区ごとに世話人さんがいて、見守り等をしていることが紹介されました。



できれば「えにしの会」でも運営委員(仮称)を選び、次回は運営委員(仮称)の皆さんと相談しながら懇親会を準備したいということを説明して、皆さんから賛同をいただき、終了しました。

多々良小学校で人権学習会が開催される（2月3日） 抱樸館福岡の瀬崎篤弘主任、上野麻帆相談員、竹尾春菜相談員が講師で

抱樸館福岡が校区にある多々良小学校では、毎年6年生対象の人権学習会が開催されています。

今年も3クラス約110名が講堂に集まり学習会を行いました。



「抱樸館を知っている人はいますか」

という瀬崎さんの質問で学習会は始まりました。ほとんど手が挙がりません。校区にあっても抱樸館は知られていないようです。瀬崎さんが、抱樸館福岡はホームレスや生活に困った人が80人くらい入居している、できたのは2010年で、今までに800人くらいが自立しています、というお話をしました。

続いて「ホームレスの人を見たことがある人はいますか」と質問すると少し手が挙がりました。

（感想文より）私は本当にホームレスの人に会ったことがあり、話をしたこともあります。あきかんなどを集めて、少しずつでもお金をかせいでいました。今日も似たようなことを聞いて本当にがんばっているということがわかりました。ホームレスではない人はかんたんにホームレスというけど、ホームレスの人は、苦しんでいるんだと思いました。

瀬崎さんが話します。「市内で普通に横になっていたりしますよね。普通の生活ができなくなって、風呂にも入っていないのではないかと思いますよね。イメージは良くないと思います。ホームレスに対する差別もあります。私の出会った人の話ですが、働いていたが心臓を悪くして仕事を辞めざるを得なくなり、家もなくなって車で生活していたホームレスの人がいます。この人が生卵をぶつけられたりします。ホームレスの人が何か悪いことをしたのでしょうか。」

続いて竹尾さんから、この仕事をするようになったのは、なぜホームレスがいるのかに疑問を持ったのがきっかけであるという話があり、イス取りゲームに入ります。

——なぜ、ホームレスになるのか、ホームレスが生まれるのか、ゲームを通して考えたいので、今からイス取りゲームをします。

生徒一同：いえーい！！

3クラスですのでクラスごとにそれぞれ円を作ってもらいます。

——綺麗な円になったら、イスを1つだけ抜いて

ください。準備はいいですか？それではミュージック・スタート！

音楽がストップして各クラス一人だけ座れない人が出ます。

——どうして座れなかったのですか？

生徒：のろまだったから。

——もうちょっとがんばれば座れたかもしれませんね。

生徒：・・・はい。

——意地悪な質問をしてすみません。

続けて順にイスを抜いて回り、ストップ、座れなかった人に感想を聞きます。



——どうして座れなかったのですか？

生徒：んー・・・みんなが早かった。

——敗因は何でしょう。

生徒：・・・（照れ）

——ここで2回目を始めます。今度は男子は内側、女子は外側になってもらいます。

女子：ええっ。男子：イエーイ！！

音楽スタート、ストップ。

——座れなかった女子の方に、インタビューします。ちょっと不利でしたねー。

女子：男子はずるいと思います。

——男子の方がイスに近かったですもんね。座れなかったのは、女子が多いでしょうか。外側だと、座りにくいですね。

（感想文より）イス取りゲームで、女子が一步さがって、不利な状態になったときに、社会がこんな感じだったら女の人とはとてもくやしいと思うから、「女性だから」といって差別をしないでほしい。

ゲームは終了して、みんなで座れるようにならないかを考えてもらいます。

——では、このイスに、全員が座るためには、どうしたらいいと思いますか？全員でイスに座ってみましょう。

生徒は、6人で4つのイスに座る・ひざの上にも

う1人乗る・さらにもう1人乗る等の工夫をする。

(感想文より)イス取りゲームをして、協力をすれば、みんなが座れるので、みんなで協力をすればいいので、このことをこれからの生活に役立てていきたいと思えます。

—すごいですね！みんなで考えたら、全員がこのイスの上に座ることができました。このイス取りゲームの



イスは仕事だと考えてみてください。仕事の数は決まっているのに仕事を探している人はイスの数より多くなっています。必ず、仕事につけない人が出てきますね。さらに、2回目は、女子は一步外を歩きました。女性だから、仕事につきにくいということがあれば、それは差別ですね。他にも、障がいがある人はイスに座りにくい(仕事に就きにくいハンデ)です。ホームレスになる人も、病気をして働けなくなる人が多くいます。さらに、ホームレスは、住所もない・スーツもない・身体も悪い状態で、仕事に就くことは、非常に困難なのです。

(感想文より)イス取りゲームをしている時に、イスを仕事に例えていた。イスを取られたらいやな気持ちになったけど最後にみんなでイスをシェアしてみんながすわれるようになった。大人になってもこういう風にみんなで協力しようと思いました。

—以上でゲームを終わります。元の整列した状態に戻ってください。

ここで竹尾さんから抱樸館福岡に入居していたMさんの話がありました。

Mさんは、佐賀県の出身の優しい人で、抱樸館福岡に入ったときは51歳だった。お父さんが土木関係の仕事をしていて、Mさんもそこで働いていたのですが、お父さんが亡くなり、会社もなくなったのでMさんも仕事がなくなった。別の会社で働くようになったがそれも倒産し、借金せざるを得なくなったので、福岡に来たが仕事が見つからない。貯金もなくなり、家も借りられない状況になり、路上生活になった。雨の日は公園のトイレで寝たこともあった。公園で水だけを飲んで過ごしていたが毎日不安であった。ホームレス支援団体の人と出会って、抱樸館に入った。住所を得て、身分証明も得て、抱樸館のスタッフのお手伝いで借金も返すことができた。Mさんには知的障害があることが分かったので、福祉サービスが受けられるように手続きをした。支援を受けることで仕事を見つけることができた。兄弟とも連絡が途絶えていたが連絡して会

うことができた。

Mさんは好きでホームレスをしていたのでしょうか。決してそうではありません。Mさんは自分の力で何とかしたいと思っていた。でもうまくいかなかった。なぜ仕事の数が少ないのでしょうか。みんなで分け合って暮らせたなら良いと思います。

(感想文より)ホームレスのMさんの話はとても悲しい話でした。でもそれが現実のお話なのでとってもMさんはつらかったと思いました。今日やったイス取りゲームみたいに半分ことか、工夫をしてみんなで助けあってホームレスの人たちを助けて減らしていけたらいいと思います。

ここで瀬崎さんから、ホームレスとハウスの話がありました。人はどのような時に頑張れるのか、褒められた時に頑張れる、家族や友達を喜ばせることができたら頑張れる、人は一人では生きられない、誰か大切な人のために頑張れる。やはり家族や仲間がいる帰るべき場所が必要であると伝えました。



瀬崎さんが、「今日の学習会でどのように感じたかをぜひ聞かせてください」ということで感想文をいただくことにしました。

(感想文より)

- ホームレスの人を見たことはないけど、父さんは「ホームレスは社会の敗者だ」と言っていたけど、でもそんなことはないと思いました。
- ホームレスのことは、考えたことがなく、今日はじめて聞きました。ホームレスの方は、家がなく野宿しているとは聞いていましたが、こんなに困っていたとは分かりませんでした。したくてしているわけじゃないのに生たまごを投げられたりしていると聞いてとても悲しいです。そのような人たちを少なくするためにできた抱樸館はほんとにいいところだなと僕は思います。ホームレスの人がとっても苦しんでいるから差別のようなことはせず、ふつうの暮らしが取りもどせるようにがんばってほしいです。今日はこのような体験をさせていただきありがとうございました。ホームレスの方に親切に接することのできる人間になりたいです。
- 校区でこういうしせつがあることをしらなくてさしょ抱樸館でなに?!とおもってたけどていねいにおしえてくれたのでわかりました。抱樸館はホームレスの人達にとって大切な場所だなと思いました。

抱樸館福岡の卒業生の退居時アンケートより

Aさん(50代の男性、2016年2月退居)

抱樸館福岡での生活はいかがでしたか?

私は、この抱樸館に初めて ~~来た~~ 入所しましたが、職員のみなさん方や厨房のスタッフのみなさん方に、食事のめんにしても、いろいろと私のために気をつけて下さりありがとうございます。又、回りのかんきょうが、良かったためか、私の身体の方も、くいと、~~癒~~ やませしもいろいろありがとうございます。これからも、いろいろと人達が入ってくると思いき、がんばって下さり。

新しい生活に向けての抱負・抱樸館へのメッセージなど

私は、新しい生活を送るため、今と別な施設へうつりおすが、向うの職員の人達の言うことを守り、そして、入所している他の人達とも、仲よく、きつある生活を送って行きたいと思っています。入所し、初めは、いろいろとわからない所もあると思いきすが、初めに、かえったきもちで、がんばって行きたいです。

Cさん(60代の男性、2015年12月退居)

抱樸館福岡での生活はいかがでしたか?

初めは不安でしたが、先の事と比べると眠れずおりました。皆様、良い人ばかりです。これからスタッフの方へいろいろ御世話になり、お礼ありがとうございました。

抱樸館福岡では、退居時に“新しい生活を始めるみなさまへ”「アンケート」をお願いし、「抱樸館福岡での生活はどうだったか」と「新しい生活に向けての抱負など」をお聞きしています。この1年の間に退居した人の「アンケート」をご紹介します。

Bさん(60代の男性、2016年2月退居)

抱樸館福岡での生活はいかがでしたか?

入所に至るまでの不安と裏腹に入所後は、日も変わるごとに、色々の入居の身振れ合い、色々の人達と感じました。そして、自分の入居も振り返ると、反省と感謝の再認識でした。この機縁を頂き、お礼申し上げます。又、担当職員、スタッフ、その他関係者の皆様の誠意ある入居への対応には敬意を表し、お礼申し上げます。規律ある生活環境の中で、不承不承といたした、節度の生活の再び心に満ちたと思いき、この生活リズムを忘れず、自分自身を律し、今後の残り少ない入居と大切に暮らしてまいりたいと思っています。本当に有り難うございました。

新しい生活に向けての抱負・抱樸館へのメッセージなど

私の入居の中で、最悪の事態がもたらした、最悪の出来事と頂きました。それは、入居しては、まだ行かない。そして、私は、入居しては、早いという教訓です。この出来事は大切に今後の入居と暮らして行きたいです。そして、一日も早く自立し、再度、独立するつもりです。抱樸館が今後とも長く、御仏の投げた蜘蛛の糸の糸で在り続けられたい事を、大切に願っております。

新しい生活に向けての抱負・抱樸館へのメッセージなど

会報から、私の入院は、退院まで、先達の言う事をよく聞いて、一日も早い退院出来る様に努めました。一日も早く自立に向かいます。

Dさん(60代の男性、2016年1月退居)

抱樸館福岡での生活はいかがでしたか?

上野さんはじめ職員の皆様のおかげのおかげで楽しい半年間を過ごす事が出来ました。経大はもうありませんが一言で言うと下記の通りです。

“感謝” このありがたかった気持ちをお互いに、手回し事が多くの人に出来れば幸いです。ほんとうにありがとうございました。

新しい生活に向けての抱負・抱樸館へのメッセージなど

これから失敗せず1日を大切にしながら着実に人生を歩んでまいりたいと思います。年をとっていき事には負けず、いつも青年のように大きな声で楽しくがんばりたいです。
抱樸館の皆様、健康に注意しながらもこのままですす良いい伝統を造りあげ、また“ふんばり”多くの人々の手助けをお願いします。ブルー・ブルー抱樸館

Fさん(60代の男性、2015年12月退居)

抱樸館福岡での生活はいかがでしたか?

職員の皆様には、大変よくしていただき本当にありがとうございました。これから一生死ぬまで抱樸館で生活をしたい事は、わすれません。
又、おいしい食事もいただきありがとうございます。みじかい期間でしたが本当にありがとうございました。

Eさん(50代の男性、2015年11月退居)

抱樸館福岡での生活はいかがでしたか?

決めた時間に、食事、入浴、体操等が、規則正しい生活が習慣となりました。
又、職員の手が細かいフォローが、何れ不安もなく過ごすことができました。本当にお世話になりました。(余談ですが、上野さんのラジオ体操はすばらしい。私か今まで見た中で、三本指に入ります)

新しい生活に向けての抱負・抱樸館へのメッセージなど

(抱負) 社会のちがいである私ですが、これから何らかの形で社会に貢献できる人間になりたい。
(メッセージ) 卒館者の寄り添いを作っているようです。大変ですが、皆様の健康を願っております。
(引子鏡子の)

新しい生活に向けての抱負・抱樸館へのメッセージなど

これから先私は、ガンとたたかって行きます。病気にまけない様、少しづつ前に進んで行きたいと思、又二人で仲よく生活を送りたいと思、います。

抱樸館福岡と連携して入居者の生活訓練をしたい。 ふくしセンター多の津内「生活訓練つむぐ」の西嶋ゆりさんにお話をお聞きしました。

「生活訓練つむぐ」は抱樸館福岡と同じ敷地にある複合型福祉施設「ふくしセンター多の津」の2階にあります。ふくしセンター多の津は、昨年(2015年)7月に開所しました。つむぐは障害者総合支援法に基づく精神障がい者と知的障がい者を対象にした自立訓練通所施設です。



—どんなことをする施設なのですか。

西嶋：自立訓練通所施設は、何らかの障がいがある方が、家事や金銭管理などの生活上の訓練をする施設です。「つむぐ」の大きな特色は様々な創作活動ができることで、特に陶芸はろくろや窯も備えていて、その場を「たのつ窯」と名付けています。ただし創作活動はあくまでも、ここに通って生活上の訓練をするためのきっかけです。

—もう少し具体的に教えていただけますか。

西嶋：Mさんは、ぜんそくを持っていて、知的な障がいもあります。Mさんは自分では“何でもできるような気がする”人で、できることももちろんたくさんあるのですが、難しいことも多いです。でも、つむぐのぬり絵の活動で、きちんと丁寧に素晴らしいものを作ることがわかりました。そこから、きちんとスタンプを押す、並べる、掃除を丁寧に行うなどのストレンクス(強み)が見えてきます。でもMさんのような人が効率を重視する職場に行くと、「もう少し早くできないか、そこまで丁寧にしなくても良いので仕上げてください」と言われてうまくいかないこともあるのです。その人の特性を生かして出来ることを増やすお手伝いをします。また、Mさんは療育手帳を持っているのでバスには割引で乗れるのですが、よく聞いてみると割引を活用していませんでした。最初は一緒について行ってやって見せる、それを何度か繰り返して、付き添って行くだけで本人にしてもらうことにする、それも何度か繰り返して、ひとりのできるようにする、途中でうまくいかなかったらまた少し前の段階に戻り、繰り返していくという

ことをやって1か月半で一人でも自信をもって療育手帳を使い割引でバスに乗れるようになりました。また、Mさんはいろんな注意事項を小さな紙片にマメにメモして持っているのですが、そのメモが2cmもの厚さになって見るどころではなくなっていました。そこで、手帳に項目ごとにまとめましょうということで整理しました。お薬も自分では管理できないと思っていましたが、これも一緒に段階を踏んでやることによって現在では薬も自分で管理できるようになりました。ATMもそうです。ついて行って一緒に操作したら何とか自分でできるようになりました。

—西嶋さんは福祉の仕事をするきっかけはなんだったのですか。

西嶋：グリーンコープの組合員になったのは21年ほど前、ちょうど福祉活動組合員基金(100円基金)を作るところ、GCふくおかの前身生協の福祉委員になりました。しばらく離れていたのですが、14年ほど前に訪問介護のワーカーズで研修を受け、資格を取って福祉の世界に入りました。



—訪問介護と障がい者福祉では分野が違いますが、

西嶋：訪問介護事業所でも、障がい者自立支援法の居宅介護での訪問には力をいれて行っていました。最初は一人のヘルパーとして仕事をしていたのですが、他のワーカーズやいろいろな人に出会うことによって障がい福祉への夢が広がってきました。私は3人子どもがいるのですが、自閉症スペクトラムのアスペルガー症候群や学習障害を持つ者がいます。そんなこともあって障がい福祉をずっと考えていました。

—働いておられた訪問介護の拠点はこのあたりではないですね。

西嶋：別の場所だったのですが、抱樸館福岡の横につくる福祉施設に障がい者への支援機能も作ろうということになり、私自身もかかわることになりました。就労継続支援B型ができないかと行政なども掛け合ったのですが、B型は沢

山あるということで認められませんでした。それでB型がダメであれば生活訓練の施設を作ることになりました。

(注) 就労継続支援B型：通常の雇用が難しく、就労移行支援をもってしても就労に困難がある者への生産活動その他の活動の機会の提供や訓練、支援の事業

——抱樸館との連携という点ではどうですか。

西嶋：抱樸館のスタッフは多くの入居者・退居者への対応があるので、スタッフがバスに同乗するなどの対応は難しいです。だからつむぐが担うことができたと思います。また最初なんとなく通っていた人で、陶芸や調理で力を発揮してくれて、なくてはならない存在になっている方もいます。「居ても良いよ」という存在承認の状態から、「居



てもらわないと困るよ」という役割創造という段階になったということです。人は“あなたが

必要です”と言われることで、とても安心して過ごすことができます。安心して、自信を取り戻す、そのような場になればと思っています。

——もう少し具体例を聞かせてください。

西嶋：抱樸館にいる間は食事が出るので良いのですが、退居者が栄養管理をするのは大変です。甘いものに依存しがちでタンパク質が不足するのです。だから甘くてもタンパク質が取れるようなおやつ作りのプログラムを工夫します。買い物支援プログラムで、予算を定め、買い置きしやすく簡単にたんぱく質の摂れるものを選んで購入する支援も行います。これまで栄養に無頓着でごはんさえ食べていけば・・・と言っていた方が、この頃ようやく栄養にちょっと興味を持てるようになったようです。今は冷凍野菜や冷凍食品を使って調理する段階にやっとたどり着いたところで、生鮮品での調理はまだその先です。さまざまな入居者の中でも障がいがある入居者の場合には、その障がい特性に応じた支援を提案し、実行していく存在がつむぐだと思っています。

——これからやりたいことを聞かせてください。

西嶋：まずはこのつむぐの運営がスムーズになることを目指します。現在利用契約者は11名ですが、30名契約で1日利用者が20名になることが当面の目標です。そして就労継続支援B

型、それも業者の下請け内職のようなものでなく、独自B型をやりたいですね。創作することが得意な方、選択肢がないとうまくいかない方がたくさんいます。特に精神障がいのある方は、多くのB型の作業、たとえば箱を折る、封筒に入れるなどの簡易作業の繰り返し、決まった作業からはみださないことは困難である場合もあるのです。編み物が得意な女性が先日相談にみえました。その方は、ある作業所で一定のパターンの編み物の仕事をするようになったのですが、それができない方なのです。しかしこの女性は創作であれば素晴らしい編み物を作れます。今、この女性は作業所に通えなくなり、自宅で悩みながら過ごされています。このような方の力になりたいのです。

——西嶋さんの熱い思いはどう生まれたのですか。

西嶋：抱樸館の入居者や障がいを持つなどして生きづらさを感じる方に共鳴しているのかもしれませんが。私は父を早く亡くし、母と兄は今で言うギャンブル依存症でした。機能不全家庭でしたが、幼い頃は地域のお寺のお坊さんや近所のおばさんに優しくされましたし、高校の時に借金取りが学校まで来ましたが、先生がかばってくれました。人は地域の人や周りの人に支えられて生きるのだと思っています。わが子がアスペルガーや学習障害と言われ、本人たちも生きづらさがありましたが、地域の人に支えられ、幼稚園で本当に良い先生に出会い、小学校でも先生に恵まれました。今は自立しています。子どもが小さいときは私がひとりで抱え込もうともしていましたが、親は大したことはできないことを思い知らされました。抱樸館福岡の入居者や退居者が、つむぐで縁あって出会った私やスタッフ、仲間とくつろいで話すことにより、気持ちがほぐれて、誰にも見せない顔を見せてくれたら。それによってご本人を支えていけたらと思っています。



——ありがとうございました。

つむぐブログ、日々更新中!

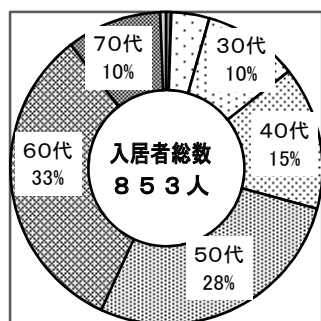
<http://www.fukushi-greencoop.or.jp/prog/dbs/122>

もしくは、

つむぐ	グリーンコープ	検索
-----	---------	----

抱樸館福岡の入居・退居などの状況

開所から2016年2月末までの入居者数



	人数	割合
10代	4	0.5%
20代	36	4.2%
30代	83	9.7%
40代	124	14.5%
50代	235	27.5%
60代	284	33.3%
70代	82	9.6%
80代	5	0.6%
合計	853	100.0%

2016年2月末現在の入居者

58人(定員81名) 男性58人、女性0人

2016年1～2月の新入居者数・退居者数

新入居者数13名 退居者数19名

(注: 12月末までの入居者数853人は、
2度・3度入居した人も1人と数えています。)

抱樸館下関・抱樸館北九州の入退居の状況は、特集の際にご案内します。

抱樸館福岡の見学のご案内

- (1) グリーンコープ生協として見学される場合は、所定の用紙でお申込ください。
- (2) 個人もしくは知り合いと一緒に

に見学される場合は、直接抱樸館福岡にご連絡ください。
◇出来れば5名以上でお願いします。(ホームページからも見学の申込が出来ます)

なお、1名あたり1000円の見学料をお願いしています。これには昼食代を含んでいます。昼食は入居者が日ごろ食べている食堂で同じものを食べていただきます。

抱樸館を支える会 賛助会員と会費について

抱樸館を支える会 賛助会員募集

賛助会員を募集しています。
賛助会員には、会報をお届けします。

グリーンコープの共同購入組員

賛助会員の申込には2つの方法があります。
①毎月250円の賛助会費を申し込みいただく(年間で3000円です)

毎月の商品代金と一緒に引き落としとなります。

OCR申込書の「1300」で申し込みください。

②1口1000円の賛助会費を申し込みいただく。何口でも申し込み出来ます。

申し込みいただいた月の商品代金と一緒に一括して引き落としとなります。

OCR申込書の「1299」で申し込みください。

賛助会員は一度申し込みいただくと毎年更新されますので新たに申し込みいただく必要はありません。(グリーンコープの共同購入組員の場合)

①の賛助会員は毎月継続して250円請求させていただきます。②の会員は申し込みいただいた月に毎年一括して請求させていただきます。

抱樸館を支える会の概要

抱樸館を支える会の目的

以下の事業・活動を目的としています。

- ◇ホームレス者支援事業
- ◇抱樸館に関する広報活動及び資金援助活動
- ◇これらに附帯又は関連する事業

設立年月日: 抱樸館福岡が2010年5月に開設されるのにあわせて同年4月10日に設立

正会員: 以下の17団体が正会員です。

- グリーンコープの各単協(14生協)
- グリーンコープ連合
- NPO法人 抱樸(旧:北九州ホームレス支援機構)
- 社会福祉法人グリーンコープ

賛助会員

2015年12月末の賛助会員は、以下の通り

- グリーンコープの共同購入組員 7873名
- グリーンコープの店舗組員・一般の方 157名
- 企業賛助会員 107社

その他(抱樸館の所在地)

- 抱樸館福岡(福岡市東区) 2010年5月開所
- 抱樸館下関(山口県下関市) 2007年4月開所
- 抱樸館北九州(北九州市八幡東区) 2013年9月開所
- 抱樸館熊本: 準備中

一般の方、グリーンコープの店舗組員

1口1000円の賛助会費を何口でも申し込み出来ます。

郵便振替でお願いします。

郵便振替 01710-0-123003

一般社団法人 抱樸館を支える会

企業賛助会員 募集中です

企業賛助会員は、会費が1口10,000円です。出来れば3口(30,000円)以上でお願いします。申し込みは、下記へ。

「抱樸館を支える会」事務局

〒812-0011

福岡市博多区博多駅前1丁目5番1号

社会福祉法人グリーンコープ

担当 家原 電話 092-482-1964

抱樸館の連絡先

抱樸館福岡 (電話 092-624-7771 FAX 092-624-7772)

〒813-0034 福岡市東区多の津5丁目5-8

抱樸館北九州 (電話 093-883-7708 FAX 093-883-7705)

〒805-0027 北九州市八幡東区東鉄町7-1-1

抱樸館下関 (電話 083-223-4544 FAX 電話と兼用)

〒750-0025 山口県下関市竹崎町3-5-25